



### 子供の犯罪

子供が実の親をあやめる事件が多発している。しばらく前、女子高校生が母親に劇薬タリウムを摂取させて殺害しようとした事件があった。どのような母子関係であったのか、原因は何なのか分かりませんが、誠に悲しい事件です。

人間は、他の動物と違って知的な行動をする素質が備わっている。人間関係の基本は信頼関係であり、子供にとって初めての人間関係である母子関係で、温かい、豊かな関係を経験することが、その後の人間形成に影響を与える。

学童期・思春期に問題を起こす子供は、「心の基地」「心の休まる場所」を持っていないことが多い。大切なことは、親はもちろんのこと、大人が子供を尊敬することである。人間は、ある程度の分別がつけば、他人から尊敬され、信頼されれば、それに応えようと努力するものです。

### 大人の責任

子供の犯罪に対して、「社会環境が悪い、だから子供を責めてはいけない」という意見がある。この意見には賛成です。このような社会環境をつくったのは大人だから、「大人の責任」を自覚すべきです。

長い歴史において、その時代、その時代をつくり出したのは、紛れもなく、当時の「大人」であったはず。だから、「もう、私の役ではない」と、投げ出したり、無関心であっては、一体、誰が今の時代を指導していくのでしょうか。

改めて、「大人である自分」を顧みて、今一度、若い人たちの「躰」に留意すべきではないでしょうか。そのためには、大人自身が、自らの言動において、「躰に欠ける」ところはないかどうか、猛省しなければならない。



テクノ経営総合研究所 TECコンサルタント

上田 勝 うえだ まさひろ

松下電器出身、営業本部および本社経営監査部等を経て、松下流通研究所、販売研究所 取締役所長を歴任

NPO兵庫経営塾 副理事長

著書「すべての仕事に商いの心を」(碧天舎)「マーケティング理論の基本は商家の家訓の中にある」「部下の心をつかむ正しいリーダーシップのあり方」(『ダイヤモンド・セールスマネジャー』に連載)

### よき社会人として

教育とは人間を作ること。その根本は「躰」にある。昔、小学校は尋常小学校と呼称された。「尋常」つまり、「誰でも、どこでも、いつでも」わきまえるべきことを修める勉強、文字通り尋常を尋ねること。

今、大人である社会人が、この「尋常」を失っていないか。

物にはすべて、「本と末」がある。これが逆さまになれば、「本末転倒」という。本とは「徳性」であり、末とは「技能、知能」です。植物も同じです。本が「根」であり、末が「枝、葉、花、実」です。

だから、枝葉末節という。植物が育つ場合は、まず「本＝根」がしっかりと育ち、その後に枝や葉が育ち、花が咲き、実がなる。これが自然の道理です。

人間も同じことです。まず「本となる徳」を磨くことが大切です。「徳」を育てるのが、「道徳、習慣」であり、これを「本学」という。技能や知識を学ぶのは、「末学」という。

社員についていえば、仕事ができる＝知識・技術が高いということも大切だが、社会人としての「徳」を高めることが、もっと大切ということです。

### 健全な社内風土をつくる

徳の高い社員がいるかどうかは、社内の風土を見れば一目瞭然です。会話や挨拶、整理整頓、規則順守、約束順守、電話対応、時間厳守、所作・振る舞い、言葉使い等、社員の一挙一動に確実に現れる。社員教育には、社員を信頼し、尊敬し、徳育を施し、「社員の心の基地」を築くことが大切です。

### テクノ経営カレッジ・経営幹部研修会【第2期生】

上田勝講師による経営幹部研修会を開催します。この機会に是非ご参加ください。

**開催日時** 9/29・10/26・11/22  
(3回連続研修) ※毎回10:00~17:00

会場：大阪産業創造館(大阪市中央区本町1-4-5)  
受講料：50,000円(消費税込) ※部分受講は20,000円/日  
お問合せ先：テクノ経営総合研究所 開発カンパニー(担当：能勢)